

記 入 日 2017年 1 月 10 日

1. 概 要

実践団体名	愛知県立海翔高等学校		
連絡先	0567-52-3061		
プランタイトル	海拔0m地帯の街で防災を考える —愛知県立海翔高等学校（環境防災コースを中心とした）取組—		
プランの対象者※1	小学生、中学生、高校生 教職員・保育士等、 地域住民、社会人・一般 防災関係者、全ての人々	対象とする 災害種別※2	災害全般

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

本校をとりまく地理的な特性（濃尾平野下流地域の海拔0m地帯）を踏まえ、防災に関する地域社会のリーダーを育成するために、平成27年度に「環境防災コース」が県内で唯一設置された。高校の教育課程では、防災を専門的に学ぶ教科や科目がないため、教師と生徒がともにゼロから防災について学んでいる。

【プランの概要】

【校内学習】

①聴講授業の開催（弥富市民・保護者を対象に、本校で開催する防災に係わる授業に招待し、生徒とともに協議を行いながら地域について考える。）②防災に関する啓発教材開発（防災ソング制作）③防災教育週間の設定（教科横断的に防災の視点を踏まえた授業の実施）

【校外学習】

①見学会の実施（中部ライフガード TEC2016、名古屋市港防災センター、河川堤防管理工事現場）②高大連携講座への参加（愛知工業大学）③防災ジョブシャドウイング（海部南部消防署）④熊本災害ボランティア（四日市大学との協働事業）

【地域交流の実施】

①小学校の避難訓練協力（近隣の小学校の児童を本校校舎4階へ誘導協力・生徒によるミニ防災講座）②文化祭の一般公開（災害対応者展示、PTAによる豚汁炊き出し無料提供、災害備蓄食料の無料配布）③防災訓練への参加（弥富市総合防災訓練におけるボランティアセンター設置訓練での模擬避難所運営協力）④ボランティアコーディネーター養成講座の開催（PTA会員も含む地域住民、中学生、高校生を対象とする講座の開催）⑤小学校への出前授業（防災ソング伝達講習・避難所体験）

【安全管理】

①弥富市との防災協定の締結（「災害時における愛知県海翔高等学校の使用に関する覚書」を交わし、災害時における避難所の使用範囲、鍵の貸与、避難所の開設等に関する条項を盛り込み市との協力関係を強める。）②保護者との連絡体制の確立（学校連絡網「きずなネット」（中部電力）加盟）

【期待される効果・ここがおすすめ！】

①防災に関する知識の習得や経験・体験の積み重ねは、生徒の探究心を高めさせ、学習の楽しさを実感させることに役立つ。
②地域ぐるみの取組は、地域住民の防災意識の高揚の契機となる。

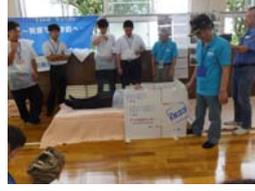
2. プランの年間活動記録 (2016 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	安全管理 ○弥富市との防災協定の締結	・新年度オリエンテーション ・「地域特性」についての学習	4/1 災害時における愛知県立海翔高等学校の使用に関する覚書
5 月	安全管理 ○保護者との連絡体制の確立 地域交流の実施 ○小学校の避難訓練協力	・「地震の際の留意点」についての学習、確認 ・計画、立案、ミニ防災講座準備、リハーサル	5/12 学校連絡網「きずなネット」(中部電力) 5/27 弥富市立十四山西部小学校
6 月	校外学習 ○見学会 校内学習 ○第 1 回聴講授業 ○第 1 回防災ソング制作講座	・「地震」「津波」「液化化現象」についての学習 ・制作計画、立案、打合せ、会場準備	6/2 第 4 回中部ライフガード T E C 2 0 1 6 見学 6/9 河川堤防管理工事現場見学 6/16 防災に強いまちづくり 6/23 「防災から連想して曲づくり」ワーク I ~ III
7 月	校内学習 ○第 2 回防災ソング制作講座 校外学習 ○高大連携講座	・計画・立案・打合せ・CDジャケットデザイン、会場準備 ・「地震」「津波」「液化化現象」についての学習	7/20 曲の完成・アレンジ 7/30・31 高大連携プログラム「新しい地域防災への取り組み」(愛知工業大学)
8 月	校外学習 ○防災ジョブシャドウイング ○見学会 校内学習 ○第 3 回防災ソング制作講座	・計画、立案、打合せ、準備 ・計画、立案、打合せ、会場準備、練習	8/25 海部南部消防署 8/26 名古屋市港防災センター 8/31 タイトル決め・レコーディング
9 月	校外学習 ○熊本災害ボランティア 地域交流の実施 ○文化祭の一般公開 校内学習 ○第 2 回聴講授業	・「熊本地震」についての学習、確認 ・計画、立案、準備 ・計画、立案、打合せ、会場準備	9/2~9/4 熊本県阿蘇郡西原村(四日市大学との協働事業) 9/8 災害時対応車両展示・PTAによる豚汁炊き出し無料提供・災害備蓄食料の無料配布 9/29 避難所体験
10 月	校内学習 ○第 3 回聴講授業	・計画、立案、打合せ、会場準備	10/20 認知症サポーター養成講座
11 月	地域交流の実施 ○防災訓練への参加 校内学習 ○第 4 回聴講授業	・計画、立案、打合せ ・計画、立案、打合せ、会場準備	11/6 弥富市総合防災訓練 11/24 ライフラインから考える防災
12 月	地域交流の実施 ○ボランティアコーディネーター養成講座	・計画、立案、打合せ、会場準備	12/23 弥富市主催・NPO法人愛知県西部防災ボランティアコーディネーターネットワークの会協力
1 月	校内学習 ○第 5 回聴講授業 地域交流の実施 ○出前授業	・計画、立案、打合せ、会場準備 ・計画、立案、打合せ、授業準備	1/19 国内外における赤十字の災害救援活動の実際 1/12 弥富市立十四山西部小学校
2 月	地域交流の実施 ○出前授業	・計画、立案、打合せ、授業準備	2/9 弥富市立十四山東部小学校
3 月	校内学習 ○防災教育週間の設定	・計画、立案、授業準備	3/2~3/8 教科横断的に防災の視点を踏まえた授業の実施

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1 】※3

タイトル	校内学習
実施月日（曜日）	①聴講授業 ①6/16（木） ②9/29（木） ③10/20（木） ④11/24（木） ⑤1/19（木） ②防災ソング制作講座 ①6/23（木） ②7/20（水） ③8/31（水） ③防災教育週間 平成29年3月2日（木）～8日（水）
実施場所	海翔高等学校 看護実習室・リハビリテーション室
担当者または講師	①聴講授業 ①担当者・講師等の区分：講師 氏 名：星屋 正敏 所属・役職等：弥富市役所 総務部危機管理課 防災対策相談員 ②担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：水谷 正司他 10名 所属・役職等：あいち防災リーダー会 海部ブロック ③担当者・講師等の区分：講師 氏 名：末藤 和正 所属・役職等：愛知県厚生農業共同組合連合会 海南病院 地域包括支援センター長 ④担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：加藤 勝敏 所属・役職等：一般社団法人 愛知県LPガス協会 営業課長 ⑤担当者・講師等の区分：講師 氏 名：伊藤 明子 所属・役職等：名古屋第二赤十字病院 国際救援部 副部長 兼看護部 看護副部長 ②防災ソング制作講座 担当者・講師等の区分：講師 氏 名：三浦 麻衣 所属・役職等：日進市立竹の山小学校 教諭 ③防災教育週間 担当者・講師等の区分：講師 氏 名：米澤 裕之 他 所属・役職等：愛知県立海翔高等学校 教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	① ② 環境防災コース 1年生 科目「環境防災基礎」2単位 2年生 科目「地域と防災Ⅰ」2単位 5時間目 13:20～14:10 6時間目 14:20～15:10 ③ 各教科担当実施時間

<p>プログラムの カテゴリ、形式^{※4}</p>	<p>2. 講習会・学習会・ワークショップ 13. 体験学習</p>
<p>活動目的^{※5}</p>	<p>3. 災害に強い地域をつくる 6. 防災に関する知識を深める 7. 技術を身につける 8. 防災意識を高める 9. 災害対応能力の育成 10. その他（防災に関する啓発教材の開発）</p>
<p>達成目標</p>	<p>①本校をとりまく地理的な特性（濃尾平野下流域海拔0m地帯）や水害等の想定される災害について、地域との連携を図りながら理解を深める。 ②災害時に自分や周囲の人々の身を守るためには、どのような活動をすればいいのかを考えることにより、防災意識を高め、災害対応能力を涵養する。 ③防災に関する知識や対策を啓発するための防災ソングを開発する。</p>
<p>実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）</p>	<p>①聴講授業</p> <p>①6/16（木）「防災に強い街づくり」（弥富市危機管理課） ＜顔の見えるつながりで 地域の防災力を高めていきましょう！＞</p> <p>1. ガイダンス・講話 2. グループワーク 3. まとめ・発表</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p>②9/29（木）「避難所体験」（あいち防災リーダー会）</p> <p>1. ガイダンス 2. 非常食を作ろう！ 3. 新聞紙を活用してのスリッパ制作・砂利歩行体験 4. 段ボールベッドでの睡眠体験発表 5. ゴミ袋を活用してカップを作ろう！ 6. 防災用品・備蓄品見学 7. 非常食を食べよう！ 8. まとめ・発表 9. 災害備蓄食料配布（主食・副食・飲料水）</p> <div style="display: grid; grid-template-columns: repeat(3, 1fr); gap: 5px;">       </div>

③10/20 (木) 「認知症サポーター養成講座」
(海南病院 地域包括支援センター センター長 末藤和正)
＜認知症の人と家族への応援者であるサポーターになり、
災害時にも支援しましょう！＞

1. ガイダンス、講話
2. グループワーク I～IV
3. まとめ・発表
4. 修了証授与



④11/24 (木) 「ライフラインから考える防災」
(一般社団法人 愛知県LPガス協会)
＜災害時に自分の身を守るためには、
どのような活動をしたらいいのでしょうか？
一緒に考えてみましょう！＞

1. ガイダンス
2. ハイゼックス調理体験 (蒸しパン)
3. ハソリ鍋の組み立て・説明
4. 講話「災害への備え」
5. DVD上映
6. 試食 (蒸しパン・コンソメスープ)
7. グループワーク
8. まとめ・発表
9. 修了証授与



⑤1/19 (木) 「国内外における赤十字の災害救援活動の実際
ー私たちにできることー」

(名古屋第二赤十字病院
国際医療救援部 副部長兼
看護部 看護副部長 伊藤明子)

＜災害が起こった！さあ、どうする？
私たちができることをみんなで考えてみましょう＞

1. ガイダンス・講話
2. グループワーク
3. まとめ・発表





②防災ソング制作講座

(曲づくり指導・協力:

日進市立竹の山小学校教諭・シンガーソングライター
三浦 麻衣)

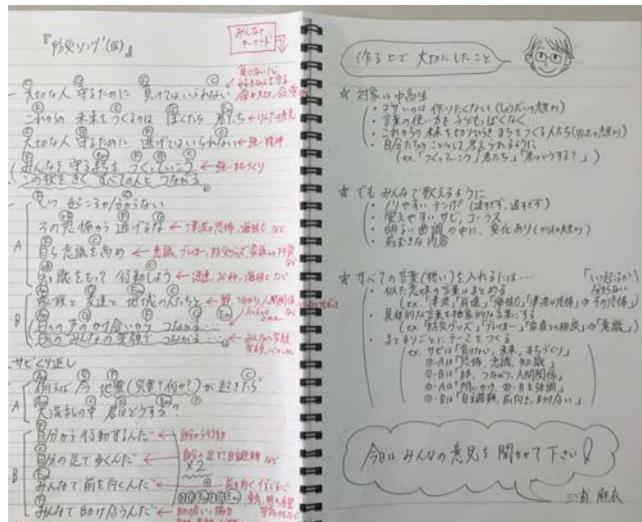
①6/23 (木) 「防災から連想して曲づくり」

1. ガイダンス
2. ワークショップⅠ 「防災に関するキーワードを集めよう！」
3. ワークショップⅡ 「誰を対象にする？」
4. ワークショップⅢ 「どんな歌を作る？」
5. まとめ



②7/20 (水) 「曲の完成・アレンジ」

1. ガイダンス・歌詞発表
2. ワークショップ 「私たちの曲をアレンジしよう！」
3. まとめ



③8/31 (水) 「タイトル決め・レコーディング」

1. ガイダンス・完成歌詞発表
2. ワークショップ 「私たちの曲にタイトルをつけよう！」
3. 歌の練習
4. レコーディング
5. まとめ



	<p>③防災教育週間</p> <p>3/2 (木) ~3/8 (水) を防災教育週間に設定し、教科横断的に全ての教員が防災の視点を踏まえた授業を実施する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>The inevitable need to be ready <small>(from The Japan Times June 19 issue)</small> 大規模地震への備え Due to the geographic and geological characteristics of the Japanese archipelago, middle- to large-scale natural disasters can strike at any time. While military conflicts or terrorists may be thwarted through human efforts, typhoons and earthquakes are inescapable, affecting all these residing in this nation</p>
<p>準備、使用したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材 ・道具、材料等 	<p>①聴講授業</p> <p>①6/16 (木) PC、プロジェクター、スクリーン、模造紙、筆記用具・防チャレ旗</p> <p>②9/29 (木) PC、プロジェクター、スクリーン、名札、ストラップ、筆記用具 防チャレ旗、長机、パイプ椅子、養生テープ、バインダー、新聞紙、砂利、セロハンテープ、ブルーシート、段ボール (大 10、小 20)、毛布、ゴミ袋 (大 45ℓ)、スーパー袋、はさみ、簡易トイレ、防災グッズバケツ、アルファ米、防災食おかず4種、箸、紙食器、お盆 (小)、サランラップ、あじ塩、ウェットティッシュ、フキン</p> <p>③10/20 (木) PC、プロジェクター、スクリーン、名札、ストラップ、筆記用具 防チャレ旗、ラミネーター、バインダー</p> <p>④11/24 (木) PC、プロジェクター、スクリーン、名札、ストラップ、筆記用具 防チャレ旗、バインダー、長机、椅子、フォーク、紙食器お盆 (小)、サランラップ、ウェットティッシュ、フキン、ビニール袋、お茶、ハイゼックス袋、ホットケーキミックス、チョコチップ、抹茶、レーズン、甘納豆、デジタル計量器、計量カップ</p> <p>⑤1/19 (木) PC、プロジェクター、スクリーン、名札、ストラップ、筆記用具 防チャレ旗、ラミネーター、バインダー</p> <p>②防災ソング制作講座</p> <p>6/23 (木)・7/20 (水)・8/31 (水) PC、プロジェクター、スクリーン、模造紙、筆記用具、防チャレ旗、音楽機器一式</p> <p>③防災教育週間 3/2 (木) ~3/8 (水) 各教科担当準備、使用物品</p>
<p>参加人数</p>	<p>①聴講授業 ②防災ソング制作講座 環境防災コース 1年生 14名、2年生 8名 地域住民 20~30名 教職員 10~15名 関係団体担当者 2~20名</p> <p>③防災教育週間 全校生徒 約 300名、教職員約 50名</p>
<p>経費の総額・内訳概要</p>	<p>各種消耗品 約 80,000円</p>



成果と課題	<p>【成果】</p> <p>①本校をとりまく地理的な特性や水害等の想定される災害について、地域との連携を図りながら理解を深めることができた。</p> <p>②災害時に自分や周囲の人々の身を守るためには、どのような活動をすればいいのかを考えることにより、防災意識が高まり、災害対応能力を身に付けることができた。</p> <p>③防災に関する知識の習得や経験・体験を積み重ねることで、生徒の探究心が高まり、学習の楽しさを実感することができた。</p> <p>④地域ぐるみで取り組んだことにより、地域住民の防災意識の高揚の契機となった。</p> <p>【課題】</p> <p>①身に付けた災害対応能力を活かし、自ら考え行動できる生徒を育成していく。</p> <p>②広報活動を充実させるなど、聴講授業の参加者が限られたメンバーに偏る傾向を防ぐための方策を考える。</p> <p>③開発した防災ソングが、効果的に活用されるような防災に関する知識や対策を啓発する方策を考える。</p>
成果物	防災ソング「つなぎたい未来」

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 2 】※3

タイトル	校外学習
実施月日（曜日）	<p>①見学会の実施</p> <p>①6/2（木）中部ライフガード TEC2016 ②6/9（木）河川堤防管理工事現場 ③8/26（金）名古屋市港防災センター</p> <p>②高大連携講座への参加</p> <p>7/30（土）・31（日）高大連携プログラム（愛知工業大学）</p> <p>③防災ジョブシャドウィング</p> <p>8/25（木）海部南部消防署</p> <p>④熊本災害ボランティア（四日市大学との協働事業）</p> <p>9/2（金）～4（日）</p>
実施場所	関係団体開催場所
担当者または講師	<p>担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：関係団体担当者 所属・役職等：名古屋国際見本市委員会、株式会社 川瀬組 防災センター担当職員 愛知工業大学高大連携推進室 海部南部消防署消防課担当職員 四日市大学総合政策学部 鬼頭浩文教授</p>
所要時間または「コマ数×単位時間」	関係団体開催時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	<p>9. 校外学習・移動教室 13. 体験学習</p> <p>17. その他（被災地支援ボランティア）</p>
活動目的※5	<p>6. 防災に関する知識を深める 7. 技術を身につける</p> <p>8. 防災意識を高める 9. 災害対応能力の育成</p> <p>10. その他（被災地支援）</p>
達成目標	<p>①防災に関する体験的な活動を通して、防災への視野を広げる「とともに、これまで学習した内容の理解を深める。</p> <p>②防災に関する見識を深めるとともに、将来の進路選択の意識を高める。</p>
	<p>①見学会の実施</p> <p>①6/2（木）中部ライフガード TEC2016</p> <p>  </p>

実践方法・進め方
(箇条書き
またはフロー)

②6/9 (木) 河川堤防管理工事現場



③8/26 (金) 名古屋市港防災センター



② 高大連携講座への参加

7/30 (土)・31 (日) 高大連携プログラム (愛知工業大学)

<講座の特徴>

- (1) なるべく実験・実習を含めた、高校生にわかりやすい内容に努める。
- (2) 各講座時間内にレポートを作成し、担当教員が評価を行う。
- (3) 2日間受講した講座の評価を総合判定し、愛知工業大学から各高等学校へ「プログラム修了証」を送付する。
- (4) 大学事務職員または学生がサポートに付き、各講座会場への誘導・管理等を行う。

③ 防災ジョブシャドウィング

8/25 (木) 海部南部消防署



④ 熊本災害ボランティア (四日市大学との協働事業)

9/2 (金) ~4 (日)





準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・人材 関係団体担当者 ・道具、材料等 関係団体に一任
参加人数	①見学会の実施 ①環境防災コース 1年生 14名、教職員 3名 ②環境防災コース 1年生 14名、2年生 8名、教職員 6名 ③環境防災コース 1年生 14名、教職員 2名 ②高大連携講座への参加 普通コース 2年生 7名 ③防災ジョブシャドウィング 環境防災コース 2年生 5名、教職員 1名 ④熊本災害ボランティア 環境防災コース 1年生 7名、教職員 3名
経費の総額・内訳概要	交通費各生徒負担
成果と課題	【成果】 ①体験的な活動を通して、防災への視野が広がり、これまで学習した内容について理解を深めることができた。 ②見学会を通して、地域の地理的特性に対する理解を深めることができた。 ③防災に関する見識を深めることによって、将来の進路選択の意識を高めることができた。 【課題】 ①身に付けた災害対応能力を活かし、自ら考え行動できる生徒を育成していくこと。 ②交通費等、生徒負担の軽減を考慮する。 ③行事と行事の間に系統性・発展性を持たせ、行事がイベントにならないような工夫をする。
成果物	成果報告書、高大連携プログラム修了証、普通救命講習 I 修了証

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 3 】※3

タイトル	地域交流の実施
実施月日（曜日）	<p>①小学校の避難訓練協力 5/27（金）</p> <p>②文化祭の一般公開 9/ 8（木）</p> <p>③防災訓練への参加 11/ 6（日）</p> <p>④ボランティアコーディネーター養成講座 12/23（金）</p> <p>⑤小学校への出前授業 1/12（木）・ 2/ 9（木）</p>
実施場所	<p>① ② ④ 海翔高等学校内開催場所</p> <p>③ 木曾川グラウンド</p> <p>⑤ ①弥富市立十四山西部小学校 ②弥富市立十四山東部小学校</p>
担当者または講師	<p>担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：関係団体担当者 所属・役職等：弥富市立十四山西部小学校教諭 弥富市役所 総務部危機管理課 NPO法人愛知県西部防災ボランティアネットワークの会、弥富市立十四山東部小学校教諭</p>
所要時間または「コマ数×単位時間」	関係団体開催時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	<p>1. イベント・行事</p> <p>2. 講習会・学習会・ワークショップ</p> <p>8. その他学校内での時間 11. 出前授業</p> <p>13. 体験学習 16. 避難・防災訓練</p>
活動目的※5	<p>1. 遊び・楽しみながらの防災 3. 災害に強い地域をつくる</p> <p>4. 災害を想定した訓練 5. 災害を疑似体験</p> <p>6. 防災に関する知識を深める 7. 技術を身につける</p> <p>8. 防災意識を高める 9. 災害対応能力の育成</p>
達成目標	<p>①防災に関する体験的な活動を通して、防災への視野を広げ、地域の小・中学生を含む住民への防災意識啓発を行う。</p> <p>②本校をとりまく地理的な特性や水害等の想定される災害について、地域との連携を図りながら理解を深め、災害対応能力を涵養する。</p> <p>③防災に関する体験的な活動を通して、防災への視野を広げる「とともに、これまで学習した内容の理解を深める。</p>

実践方法・進め方
(箇条書き
またはフロー)

①小学校の避難訓練協力 5/27 (金) 弥富市立十四山西部小学校

近隣の小学校の児童を本校校舎4階へ誘導協力し、環境防災コース生徒によるミニ防災講座を開催する。



②文化祭の一般公開 9/ 8 (木)

学校祭を一般に広く開放し、災害対応車両の展示やP T Aによる豚汁炊き出し、災害備蓄食料の無料配布を実施する。



③防災訓練への参加 11/ 6 (日)

弥富市総合防災訓練におけるボランティアセンター設置訓練での模擬避難所運営協力



④ボランティアコーディネーター養成講座 12/23 (金)

P T A会員も含む地域住民、中学生、高校生を対象とする講座の開催



⑤小学校への出前授業

環境防災コース1年生による防災ソング伝達講習や避難所体験出前授業の開催

①1/12 (木) 弥富市立十四山西部小学校

②2/ 9 (木) 弥富市立十四山東部小学校



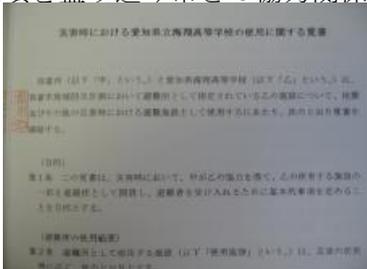
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・人材 関係団体担当者 ・道具、材料等 ① ② ③ 関係団体に一任 ④ボランティアコーディネーター養成講座 12/23 (金) PC、プロジェクター、スクリーン、模造紙、筆記用具
参加人数	①小学校の避難訓練協力 環境防災コース 1年生14名、2年生8名、教職員6名 弥富市立西部小学校児童生徒 名 ②文化祭の一般公開 全校生徒 約500名、教職員約50名、PTA会員 約50名、 地域住民 約200名 ③防災訓練への参加 環境防災コース 1年生14名、2年生8名、教職員6名 ④ボランティアコーディネーター養成講座 環境防災コース 1年生10名、2年生5名、地域住民1名、PTA 会員 3名、教職員3名、弥富市立十四山中学校2年生3名 学校法人愛西学園黎明高等学校3年生3名及び教職員2名 ⑤小学校への出前授業 ①1/12 (木) 弥富市立十四山西部小学校5・6年生 42名 環境防災コース 1年生12名、教職員6名 ②2/ 9 (木) 弥富市立十四山東部小学校3・4年生 52名 環境防災コース 1年生12名、教職員6名
経費の総額・内訳概要	各種消耗品 約50,000円
成果と課題	【成果】 ①開発した防災ソングやこれまで学習した内容を活用し、地域の小・中学生を含む住民への防災意識啓発を行うことができた。 ②地域ぐるみで取り組んだことにより、地域住民の防災意識が高まり、地域住民とともに災害対応能力を身に付けることができた。 【課題】 ①与えられた課題をこなすだけでなく、身に付けた災害対応能力を活かし、自ら考え行動できる生徒を育成していく。 ②広報活動を充実させるなど、参加者が限られたメンバーに偏る傾向を防ぐための方策を考える。 ③企画の段階から、地域の住民と協働で検討をし、参加者が客人とならないような運営をする。
成果物	成果報告書、ボランティアコーディネーター養成講座修了証

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 4 】※3

タイトル	安全管理
実施月日（曜日）	①弥富市との防災協定の締結 4/1（金）～ ②保護者との連絡体制の確立 5/12（木）～
実施場所	愛知県立海翔高等学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：関係団体担当者 所属・役職等：弥富市、愛知県立海翔高等学校 P T A
所要時間または「コマ数×単位時間」	関係団体開催時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	17. その他（安全管理）
活動目的※5	3. 災害に強い地域をつくる 8. 防災意識を高める 9. その他（安全管理体制の強化をはかり、地域連携を深める）
達成目標	①「災害時における愛知県海翔高等学校の使用に関する覚書」を交わすことで、弥富市との協力関係を強める。 ②保護者との連絡体制の確立をする。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<p>①弥富市との防災協定の締結 4/1（金）～ 「災害時における愛知県海翔高等学校の使用に関する覚書」を交わし、災害時における避難所の使用範囲、鍵の貸与、避難所の開設等に関する条項を盛り込み市との協力関係を強める。</p>  <p>②保護者との連絡体制の確立 5/12（木）～ 学校連絡網「きずなネット」（中部電力）加盟</p> 



準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・人材 関係団体担当者 ・道具、材料等 関係団体に一任
参加人数	愛知県立海翔高等学校
経費の総額・内訳概要	<input checked="" type="checkbox"/> P T A 会費で運用
成果と課題	【成果】 ①「災害時における愛知県海翔高等学校の使用に関する覚書」を交わすことで、弥富市との協力関係を強めることができた。 ②保護者との連絡体制の確立をすることができた。 【課題】 ①提供を受けた災害非常食、毛布、簡易トイレ、ボート等を活用した避難訓練を実施するなどし、本校が弥富市と協力関係にあることを意識する。 ②学校連絡網「きずなネット」設置を周知徹底させ、P T A 会員、生徒、教職員の登録者数の拡充をはかる。
成果物	「災害時における愛知県海翔高等学校の使用に関する覚書」作成 「きずなネット」設置

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案と調整で苦勞した点 工夫した点</p>	<p>【苦勞した点】 ○総合学習や特別活動ではなく、学校設定科目「環境防災基礎」や学校設定科目「地域と防災Ⅰ」として成立させ、評価することに工夫が求められた。</p> <p>【工夫した点】 ○学校設定科目「環境防災基礎」では、補助教材として「新版 地域からつくる明日の地球環境」（実教出版）を、学校設定科目「地域と防災Ⅰ」では、「愛知防災物語ー昔・今・未来へつなげる命ー」（愛知教育大学監修、あいち・探検・発見・ほっと県隊発行）を用い、小テストや定期考査での評価を行った。</p> <p>【苦勞した点】 ○聴講授業や地域交流など、地域ぐるみでの取組を立案するにあたっては、学校内外に人的資源、物的資源、資金的資源、情動的資源、ネットワーク資源等の諸資源がどの程度、存在するのかの把握ができていなかった。</p> <p>【工夫した点】 ○地域の特性を考慮したニーズとデマンドになるように、立案の段階で地域（弥富市 弥富市役所 総務部危機管理課）と連携しながら進めた。</p>
<p>準備活動で苦勞した点 工夫した点</p>	<p>【苦勞した点】 ○防災・減災に関する専門の知識や技術をもった教員がいなかった。</p> <p>【工夫した点】 ○防災士をはじめとする資格取得や他団体が開催するセミナーや研修会に教員が積極的に参加し、準備を進めた。</p> <p>【苦勞した点】 ○校外でのイベントを除き、多くの活動が授業時間内で実施できるように、関係団体との日程調整に困難が生じた。</p> <p>○活動が環境防災コースの生徒を中心に授業の一環で実施されるということをお理解いただいたうえで、協力してもらえらるる団体を模索し、協議を重ねた上で準備を進めた。</p>
<p>実践に当たって苦勞した点 工夫した点</p>	<p>【苦勞した点】 ○指導モデルが少ない。</p> <p>【工夫した点】 ○日本防災士機構の防災士教本や弥富市防災ガイドブック等の資料も参考にしながら、独自のワークシートを作成し、指導している。</p> <p>○教材をポートフォリオ化することで、次年度以降も全ての教員が防災関連科目を担当できるように配慮している。</p> <p>【苦勞した点】 ○行事がイベントになりがちである。</p> <p>【工夫した点】 ○行事の前後に事前・事後学習を実施することにより一過性のイベントになることを防いでいる。</p> <p>○行事の間に系統性・発展性を持たせることにより、生徒の成長が感じられる。</p> <p>【苦勞した点】 ○生徒の金銭的が大きい。</p> <p>【工夫した点】 ○県防災局・教育委員会、日本赤十字社の事業を最大限に活用している。</p>



【苦勞した点】

○教育課程上、防災教育ばかり実施できない。

【工夫した点】

- 現在、学校では、キャリア教育、道徳教育、グローバル教育、ICT教育、アクティブラーニングなど多岐にわたる教育の充実が求められている。これらの活動を単独で捉えることなく、防災教育を教育活動の中心に位置付けながら、あらゆる教育の視点を踏まえた教育活動を実践している。
- 学校全体で防災教育の機運を高めるため、防災挙育週間を設け、全ての教員が防災の視点を踏まえた授業を実施する。

【苦勞した点】

○卒業後の進路が不安である。

【工夫した点】

- 防災教育を系統的に実施することにより、バランスのとれた社会人を育成することができる。また、正解のない解答を導き出す能力を育成できるなど、一般的な生徒に比較し十分なアドバンテージをもつことになり、就職試験や上級学校での推薦入試においてもその有効性は高い。

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	愛知工業大学	高大連携講座
	四日市大学	熊本災害ボランティア
	学校法人愛西学園黎明高等学校	ボランティア養成講座 参加
	弥富市立十四山西部小学校	避難訓練協力・出前授業 受け入れ
	弥富市立十四山東部小学校	出前授業受け入れ
保護者・ PTAの組織	弥富市立十四山中学校	ボランティア養成講座 参加
	日進市立竹の山小学校	防災ソング講座講師
地域組織	愛知県立海翔高等学校PTA	豚汁炊き出し・聴講授業 参加
国・地方公共団体・ 公共施設		
企業・ 産業関連の組合等	愛知県厚生農業協同連合会 海南病院	聴講授業講師
	一般社団法人 愛知県LPガス協会	聴講授業担当
	名古屋第二赤十字病院	聴講授業講師
	海部南部消防署	防災ジョブシャドウイ ング受け入れ
	株式会社 川瀬組	見学会担当
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	あいち防災リーダー会 海部ブロック	聴講授業担当
	名古屋国際見本市委員会	中部ライフガード T EC2016 主催
	NPO法人愛知県西部防災ボランティア ネットワークの会	ボランティア養成講座 担当
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		



6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○体験的な活動を通して、防災への視野が広がり、これまで学習した内容について理解を深めることができた。 ○防災に関する知識の習得や経験・体験を積み重ねることで、生徒の探究心が高まり、学習の楽しさを実感することができた。 ○災害時に自分や周囲の人々の身を守るためには、どのような活動をすればいいのかを考えることにより、防災意識が高まり、災害対応能力を身に付けることができた。 ○見学会への参加や地域との連携を図る取組を通し、本校をとりまく地理的な特性や水害等の想定される災害について、理解を深めることができた。 ○地域ぐるみで取り組んだことにより、地域住民の防災意識の高揚の契機となった。 ○防災に関する見識を深めることによって、将来の進路選択の意識を高めることができた。 ○開発した防災ソングやこれまで学習した内容を活用し、地域の小・中学生を含む住民への防災意識啓発を行うことができた。 ○「災害時における愛知県海翔高等学校の使用に関する覚書」を交わすことで、弥富市との協力関係を強めることができた。 ○保護者との連絡体制を確立することができた。
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○与えられた課題をこなすだけでなく、身に付けた災害対応能力を活かし、自ら考え行動できる生徒を育成していく。 ○地域交流での参加者が、限られたメンバーに偏らないように広報活動を充実させるなどの方策を考える。 ○地域交流では、企画の段階から、地域の住民と協働で検討し、参加者が客人とならないような運営を行う。 ○開発した防災ソングを効果的に活用し、防災に関する知識や対策を啓発する方策を考える。 ○交通費等、生徒負担の軽減を考慮する。 ○行事と行事の間に系統性・発展性を持たせ、行事がイベントにならないような工夫をする。 ○弥富市から提供を受けた災害非常食、毛布、簡易トイレ、ポット等を活用した避難訓練を実施するなどし、本校が弥富市と協力関係にあることを意識する。 ○学校連絡網「きずなネット」設置を周知徹底させ、PTA会員、生徒、教職員の登録者数の拡充をはかる。
<p>今後の 継続予定</p>	<p>2016年 防災教育チャレンジプランの活動は、PTA会員、生徒、教職員、地域住民の防災意識を高めるために非常に効果的であった。防災教育は、「生きる力」をはぐくむことのできる素晴らしい教育であるということを生徒の変容の様子からも実感している。</p> <p>本校では、2017年のプランにも選出していただいた。これからも、環境防災コースの活動を中心に、あらゆる教育活動に防災教育の視点を取り入れ、今後も学校全体の取組として防災教育を継続していく。さらには、可能な限り、他校にも本校での取組を紹介し、本県全体の高等学校で防災教育推進の機運が高まるよう努めていく。</p>

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

成果発表の一つとして、以下に「防災ソング制作講座」の様子を記す。

「防災ソング制作講座」

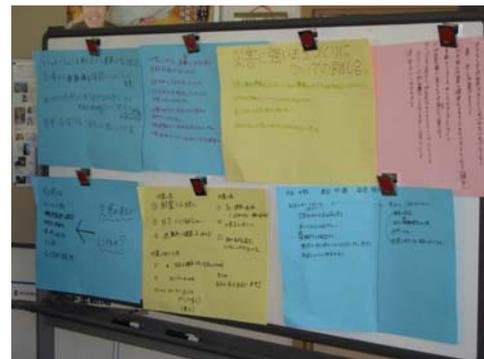


曲づくり指導・協力：日進市立竹の山小学校教諭
シンガーソングライター
三浦 麻衣さん

1回目：平成 28 年 6 月 23 日（木）＜防災から連想して曲づくり＞

◆ ワーク I 「防災」に関わるキーワードを集めよう！

“負けない心” “好きな人を守る”
“命が大切” “命” “愛” “絆”
“家族” “強いまちづくり”
“みんなの笑顔” “勇気”
“人と人とのふれあい” “協力”
“自分から行動” “前を向いて”
“信じる心” “希望” “助け合い”



◆ ワーク II 誰を対象にするのか？

- ・対象は中高生
- ・ダサいのは作りたくない。
- ・言葉の使い方も子どもっぽくなく。
- ・これからの未来を切り開き、町をつくる人たちへのメッセージ。
- ・自分たちのこととして考えられるように。
(ex. 「つくっていこう」「君たち」「君はどうする？」)

(自由記述： 1/3)

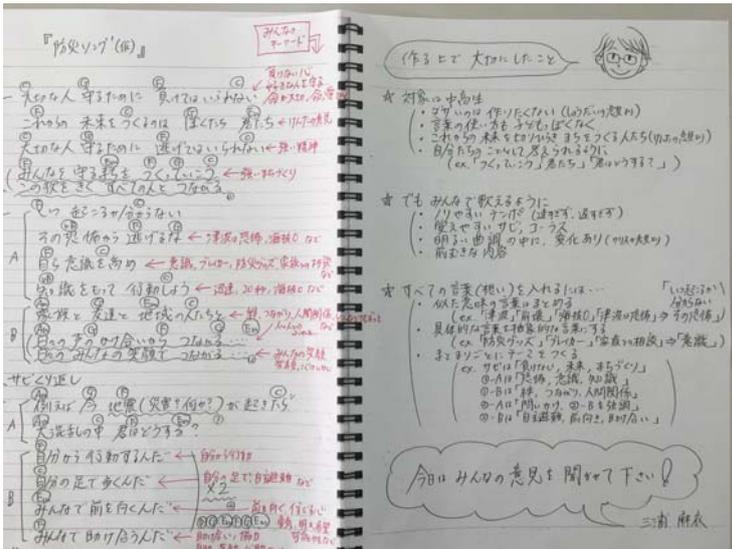
◆ ワークⅢ どんな歌を作るのか？

でも、みんなで歌えるように

- ・ノリやすいテンポ（速すぎず、遅すぎず）
- ・覚えやすいサビ、コーラス
- ・明るい曲調の中に変化あり。
- ・前向きな内容。

2回目：平成 28 年 7 月 20 日（水）

<曲の完成、アレンジ>



3回目：平成 28 年 8 月 31 日（水）

<タイトル決め・レコーディング>



平成 28 年 9 月 10 日（土）朝日新聞 尾張版に掲載

(自由記述： 2/3)



「つなぎたい未来」

大切な人 守るために 負けてはいられない
これからの未来をつくるのは ほくたち きみたち
大切な人 守るために 逃げてはいられない
みんなを守るまちを つくっていこう

ラ~ラララ~ラララ~ラララ~ ラ~ラララ~ラララ~ラララ~

いつ起こるか分からない その恐怖から逃げるな
自ら意識を高め 勇気をもって行動しよう

家族と友達と地域の人たちと 日々みんなの笑顔でつながる

大切な人 守るために 負けてはいられない
これからの未来をつくるのは ほくたち きみたち
大切な人 守るために 逃げてはいられない
みんなを守るまちを つくっていこう

ラ~ラララ~ラララ~ラララ~ ラ~ラララ~ラララ~ラララ~

たとえば今 災害が起きたら
大混乱の中 きみはどうする？

自分から行動するんだ 自分の足で歩くんだ
みんなで行動するんだ みんなの足で歩くんだ
みんなの前を向くんだ みんなで助け合うんだ

大切な人 守るために 負けてはいられない
これからの未来をつくるのは ほくたち きみたち
大切な人 守るために 逃げてはいられない
みんなを守るまちを つくっていこう
この歌をきく 人と つながっていこう~

ラ~ラララ~ラララ~ラララ~ ラ~ラララ~ラララ~ラララ~

ラ~ラララ~ラララ~ラララ~ ラ~ラララ~ラララ~ラララ~

(自由記述: 3/3)